

第2期堺文化芸術推進計画に対する
最終評価について

答申書

(令和3～令和7年度〈5カ年〉に実施する評価の5年目)

令和7年11月

堺市文化芸術審議会

はじめに

堺市における文化芸術振興の基本理念などを定めた「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」（以下「条例」という。）に基づき策定した「第2期堺文化芸術推進計画」（以下「第2期計画」という。）を踏まえ、令和7年3月5日、同計画の最終評価について、諮問を受けた。

第2期計画では、前期計画の結果やその後の社会情勢の変化から生じた課題に対応するため、新たに、「重点的方向性1：文化芸術とともに生きる」、「重点的方向性2：文化芸術で子どもたちを育てる」、「重点的方向性3：多くの人に魅力を伝える」の3つの重点的方向性を設定している。第2期計画の評価に当たっては、各重点的方向性につき令和3年度から6年度にかけて事業を選定し、当該事業の実施主体へのヒアリングや現場の視察等を通して、第2期計画の骨子である重点的方向性について有効な施策が実施できているかの検証・評価を行ってきた。

評価の5年目である令和7年度において、堺市文化芸術審議会では、諮問に基づき第2期計画の最終評価について討議を行い、次のとおり結論を得たので、堺市長に答申するものである。本答申の趣旨に沿って、市は、文化芸術施策の更なる発展をめざし、引き続き着実かつ効果的な事業及び施策の推進を図るとともに、必要に応じて、事業の実施主体に対する指導等の措置を講じるよう要望する。

会長 藤野 一夫
会長代理 永島 茜
委員 雨森 信
 稲本 渡
 井上 信太
 坂成 美保
 永井 泉
 藤原 麻喜子
 山口 洋典

第2期堺文化芸術推進計画

基本目標

- 自由で心豊かな市民生活の実現
- 都市魅力の創造

基本目標の実現へ

基本的施策

市民文化					共通			都市文化		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
環境化の芸術整備活動を行なう	備と文化が化芸で芸術を親境しのむ整こ	化学校芸術教育の親境しのむ整こ	化学子来ども文化の親境しのむ整こ	将子育成担	材文化の育芸成担	文化施設の化芸成担	多様な分野との連携	及歴史的な資源の継承	の魅力的なまちの景観	交国際的な文化芸術の経済活動との連携
条例第9条	条例第10条	条例第11条	条例第12条	条例第13条	条例第17条	条例第14条	条例第15条	条例第16条	条例第18条	条例第19条

重点的方向性 1 文化芸術とともに生きる

- 重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決
- 重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実
- 重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供

<具体的取組>

- ・すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実
- ・「堺アーツカウンシル」の創設による施策の推進
- ・地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化
- ・コミュニティのつながりによる地域活性化の実現

重点的方向性 2 文化芸術で子どもたちを育てる

- 重点的施策2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供
- 重点的施策2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成

<具体的取組>

- ・市内学校園での文化芸術鑑賞、ワークショップ等の実施
- ・意欲のある子どもが更に興味を深めることができる活動の場の提供
- ・子どもと芸術をつなぐ人材の育成
- ・行政、芸術家と子育て機関、学校等との有機的な連携

重点的方向性 3 多くの人に魅力を伝える

- 重点的施策3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成
- 重点的施策3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信

<具体的取組>

- ・歴史文化資源を活用した市民意識醸成、情報発信
- ・地域の伝統文化や文化財を活用した都市の活性化
- ・未来の歴史文化資源の発掘、育成
- ・フェニーチェ堺による都市魅力の発信

各重点的方向性に係る各年度の視察及び評価について

重点的方向性 性1	文化芸術とともに生きる					
	○重点的施策1-1：文化芸術を通じた社会的課題の解決 ○重点的施策1-2：すべての人が文化芸術を享受できる機会の充実 ○重点的施策1-3：市民の文化芸術活動の機会の提供					
	評価指標	目標値 (令和7 年度)	実績			
目標達成状況			R2	R3	R4	R5
文化施設※利用者数	1,500,000 人／年	471,167 人／年	549,531 人／年	940,199 人／年	1,087,879 人／年	
地域文化会館における 地域マネジメント機能 の構築	機能構築	—	—	—	—	
社会包摂型事業の新規 実施	事業実施	—	—	—	—	

※フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）、堺市立文化館、堺市立梅文化会館、堺市立西文化会館、堺市立東文化会館、堺市立美原文化会館、堺市立中文化会館

《視察事業》

- ・文化施設実施事業（西文化会館）【舞太鼓あすか組】(R3)
- ・まちなかワークショップ（“音楽造形” 鉄琴作成と合奏ワークショップ）(R3)
- ・文化施設振興事業（東文化会館）
【第4回北野田エンターテインメントフェスティバル】(R4)
- ・指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修 (R4)
- ・地域でのアート活動を学ぶ勉強会 (R5)
- ・企画担当者のためのワークショップ実践研修（展開編）(R5)
- ・トーキイベント (R6)
- ・さかいとあーと井戸端かいぎ（交流会） (R6)

【令和3年度】

「文化施設実施事業（西文化会館）」は、市民が文化芸術事業を鑑賞するだけでなく事業にも参画する等、市民に文化芸術活動を行う機会を提供するものであり、「文化芸術とともに生きる」という方向性への寄与が認められる。公益財団法人堺市文化振興財団（以下、財団という）が実施する「まちなかワークショップ」においても、社会福祉協議会と連携して実施したこども食堂での視察事業だけでなく、聴覚高等支援学校生を対象とした文楽鑑賞及び人形解説ワークショップを実施する等、様々な困難を抱えている人々や支え手となっている人々など幅広い対象にリーチすることができております、文化芸術を通じた社会的課題の解決という観点からも同方向性に寄与する取組であるといえる。

他方、地域文化会館の地域における文化芸術拠点としての機能強化に向けては、フェニーチェ堺、各文化会館・文化施設間での事業実施に係る職員同士のノウハウの共有や研修における相互の交流等、更なる連携強化に取り組まれたい。

【令和4年度】

「文化施設振興事業（東文化会館）」は、市民に文化芸術活動を行う機会を提供する取組であるだけでなく、コミュニティのつながりによる地域活性化をめざしたものであり、「文化芸術とともに生きる」という方向性への寄与が認められる。

「指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修」については、各文化会館の企画担当者等が社会包摂をテーマにしたワークショップの実践方法を学ぶことにより、地域における文化芸術拠点の機能強化につながるものであり、同方向性への寄与が認められる。ただし、各文化会館等の職員は有期雇用である場合が多いことから、本事業における課題は、研修で会得した知識・ノウハウをどのように引き継いでいくかである。

【令和5年度】

「地域でのアート活動を学ぶ勉強会」は、文化芸術活動を実施する市民がアート活動について学ぶことができるだけでなく、講師陣や、地域で活動する参加者同士が自らの活動を踏まえた意見交換を行うことで、地域での活動の活性化につながる取組である。ただし、参加者が少ない点については、ターゲットやテーマ、開催時間を工夫する等、検討の余地がある。

「企画担当者のためのワークショップ実践研修」は、多くの市民と関わる文化会館の企画担当者のスキルを向上させる、言わば市民が文化芸術とともに生きるために基盤を構築する事業である。他方で、各文化会館の職員の任期や異動にも対応できるよう、今後も引き続き毎年度定期的な実施が必要である。

これら市民や文化会館の企画担当者のスキルの底上げにつながる勉強会や研修に加え、堺市文化芸術活動応援補助金の制度の運用や市民の文化芸術活動に対する相談対応等、堺アーツカウンシルを中心に文化芸術を通じた社会的課題の解決につながる取組が行われている。これらは「文化芸術とともに生きる」という方向性に沿った施策を実現したものといえる。また、堺アーツカウンシルの活動とその報告書の内容は非常に充実したものであるが、認知度向上に向けてホームページ等での公開だけではなく、媒体の工夫によって広く全国に発信すべきものである。

【令和6年度】

「トークイベント」は、文化芸術活動の評価という専門的な内容であったが、多くの関係者が参加し、それぞれの立場での評価について理解を深められる内容である。参加者からの質問や意見も出て、文化芸術活動の現場で発生する問題を共有し事例を踏まえながら、それぞれ異なる立場から議論され、評価について考えることで、今後に向けた活動の新たな可能性が示された。本事業では文化芸術活動の具体的な事例から本質的な問題まで広く扱っており、アーカイブでの公開を活用し、参加者のみならず、文化芸術活動を行う者をはじめ、多くの関係者への更なる広がりを期待したい。

「さかいとあーと井戸端かいぎ」は堺アーツカウンシルの専門家たちや、地域で活動する参加者同士が自らの活動を踏まえた意見交換を行うことで、堺市の文化芸術活動の活性化につながる取組である。また、補助金事業の説明会直後に開催することで幅広い世代、異なるジャンルの参加者が集まり、活発な交流が生まれている。

このように、堺アーツカウンシルを中心に文化芸術を通じた社会的課題の解決につながる取組が行われており、「文化芸術とともに生きる」という方向性に沿った施策を実現するものである。堺アーツカウンシルの活動とその報告書の内容は、市民に寄り添うことで地域の文化芸術活動を活発にし

て、文化芸術のすそ野を広げていくものであり、更なる認知度向上に向けて堺市内はもちろんのこと広く全国に発信すべきである。

重点的方向性2	文化芸術で子どもたちを育てる						
	○重点的施策 2-1：未来の文化芸術を担う子どもたちへの文化芸術に触れる場の提供 ○重点的施策 2-2：子どもたちの育成に寄与する芸術家の育成						
目標達成状況	評価指標	目標値 (令和 7年 度)	実績				
	芸術家の学校への派遣割合 (計画期間における派遣校数/全小中学校数)	80%	44%	44.2%	46.4%	50.7%	58.7%
	事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合	90%	82%	75.9%	76.3%	77.8%	76.4%
	事業体験後、学校側が子どもたちに良い影響・変化があったと答える児童の割合	90%	87%	96.2%	89.9%	84.4%	88.9%

※文化課所管の事業を主に指標に用いています。事業の推進にあたっては、教育委員会の協力を得て実施しています。

《視察事業》

- ・さかいミーツアート（造形）（R3）
- ・さかいミーツアート（音楽）（R3）
- ・さかいミーツアート（バレエ）（R4）
- ・アートスタートプログラム（音楽体験プログラム）（R4）
- ・Dance Power 2022 in フェニーチェ堺（R4）
- ・アートスタートプログラム（音楽）（R5）
- ・さかいミーツアート（造形）（R5）
- ・ワークショップスキル夏季集中講座（R6）
- ・アートスタートプログラム（音楽）（R6）

【令和3年度】

「さかいミーツアート」は、学校という場でこどもたちがリラックスして文化芸術に触れができる貴重な機会を提供する事業であり、「文化芸術で子どもたちを育てる」という方向性に合致した取組である。また、分野によっては、若いアーティストが助手として参加しており、こどもたちの育成に寄与する次代のアーティストの育成にもつながっている。

このように、授業単体についてみれば優れた効果が期待できるものの、事業全体の重点的方向性への寄与という視点からは、実施校数が不足している点や偏りがある点が課題である。また、実施分野についても、特定の分野に偏ることなく、幅広い分野について実施することが望ましい。次年度以降、新規実施校開拓及び幅広い分野での実施が可能となるよう検討されたい。

【令和4年度】

「さかいミーツアート」、「アートスタートプログラム」は、こどもたちが実際に文化芸術に触れる貴重な機会を提供するだけでなく、こどもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という方向性に寄与するものである。

次年度以降も同方向性の実現に向けてフェニーチェ堺等の市内文化施設へのインリーチの開拓を含めた多様なプログラムの追求と量的な拡大への努力が一層望まれる。そのためには、財団が中心となって専門的なアートコーディネーターを育成する等、持続的・発展的な運営の仕組みを検討する必要がある。

他方、事業への参加をきっかけとして生徒や児童が更に理解や経験を深めることを希望した場合、次のステップにどのようにつなげていくかについても今後、一層の検討を要する。例えば、市内施設での事業一覧を学校園に配布する等、次のステップへのアプローチを保護者やこどもたちに提示することも有効であろう。

「Dance Power 2022 in フェニーチェ堺」は、ダンスに関心のあるこどもたちにとって、目標となりさらにレベルアップを図る機会になることが期待できる事業である。より魅力的なものとなるよう事業内容を考えていく必要はあるもののダンスを通してこどもたちの育成に資するものであり、同方向性への寄与が認められる。

【令和5年度】

「さかいミーツアート」、「アートスタートプログラム」は、いずれの事業についても全ての応募校・園に対する派遣ができていない点については今後改善が必要である。ただし、事業の質については現在の内容を維持すべきであることから、実施校・園へのヒアリング等の工数の削減ではなく、財団の人材拡充により当該課題に対応する必要がある。

一方で、これらの事業の実施により、各校・各園のニーズに応えるために複数のコースやプログラムを用意する等、こどもたちが実際に文化芸術に触れる貴重な機会が提供されている。それだけでなく、こどもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という重点的方向性に寄与する取組が実施されている。

【令和6年度】

「ワークショップスキル夏季集中講座」は幅広い年齢層で様々な音楽ジャンルで活動するアーティストが集まり、こどもたちが文化芸術に触れる場や機会を創出していくことの出来るアーティスト育成等、そのコミュニティを形成する事業目的が明確である。ワークショップ実施後も実際に学んだことを披露する場や、アーティスト同士で交流できる場が設けられており、専門人材の育成と環境整備を長期的な視点で取り組んでいたのは評価に値する。ただし、このような事業を持続的に提供するためには財団の負担や労力も考慮して実施する必要がある。

「アートスタートプログラム」は、こどもたちが文化芸術活動に触れる機会の提供だけでなく、こどもたちに向けたプログラムを実施するアーティストの育成にもつながっており、「文化芸術で子どもたちを育てる」という重点的方向性に寄与する取組が実施されている。財団にはプロフェッショナル集団として一層専門性を高めることが期待される。また、全ての応募校・園に対する派遣ができていない点については財団の人材を拡充することや、実施校・園のニーズを事前に想定してプログラムを一部パッケージ化するなど、引き続き堺市と協働の上、改善を求める。

重点的方向性 3	多くの人に魅力を伝える						
	○重点的施策 3-1：堺の文化資源を通じた市民意識の醸成						
○重点的施策 3-2：市外、国外の人々への堺の文化資源の魅力発信							
目標達成状況	評価指標	目標値 (令和 7 年 度)	R2	R3	R4	R5	R6
	山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋敷来館者数	30,000 人／年	7,651 人／年 ※1	5,742 人／年 ※1	9,221 人／年 ※1	7,428 人 ／年※2	33,098 人／年
	文化芸術事業の認知度が 30%を超える事業数	10	3	1	1	2	5
	先人顕彰事業の参加者数 (さかい与謝野晶子青春の 短歌大会参加者数 及び阪田三吉名人杯将棋大 会参加者数)	10,000 人／年	6,616 人／年	4,631 人／年	6,603 人／年	6,654 人 ／年	9,383 人／年

※1 鉄炮鍛冶屋敷は令和 6 年開館のため、山口家住宅、清学院の来館者数

※2 山口家住宅、清学院は休館期間を除いた令和 5 年 4 月から 6 月までの来館者数、堺鉄炮鍛冶屋敷来館者数は開館後の令和 6 年 3 月からの来館者数

《視察事業》

- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業 (R3)
- ・さかい利晶の杜における呈茶体験、常設展、企画展 (R4)
- ・堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業 (R5)
- ・文化芸術振興事業 (フェニーチェ堺) 【東京混声合唱団】(R5)
- ・文化芸術振興事業 (フェニーチェ堺) 【ベルリン・フィルハ重奏団】(R5)
- ・文化芸術振興事業 (フェニーチェ堺) 【“子どものための”音楽のあるひととき】(R6)
- ・さかい利晶の杜管理運営事業【きむらとしろうじんじん「野点 in さかい利晶の杜」】(R6)

【令和 3 年度】

「堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業」は、アルフォンス・ミュシャという一人の画家の作品を、年 3 回テーマを代えて展示していくという事業である。ともすれば単調となりかねないところを、来館した幅広い年代に魅力が伝わる工夫を凝らした展示がされており、「多くの人に魅力を伝える」という方向性に沿った取組である。

このように、来館者にはミュシャ作品の魅力が十分に伝わる内容となっているが、より多くの来館者を確保できるよう、館自体の認知度向上の方策を検討する必要がある。

【令和4年度】

「さかい利晶の杜における呈茶体験、常設展、企画展」は、与謝野晶子や千利休、環濠都市といった堺が有する多くの歴史文化資源の発信に加え、茶室見学や呈茶体験等の体験型のコンテンツを実施する等、堺の歴史文化資源の魅力を多様な方法でPRする事業であり、「多くの人に魅力を伝える」という方向性と合致する。他方で、展示自体のクオリティは高いものの、展示位置や解説等については、こどもや外国人といった幅広い層へのアプローチという観点を踏まえると工夫の余地がある。加えて、市内各地への誘導を図る中核施設としての機能強化についても検討を要する。いわば文化観光拠点としてのミッションを再確認すべきであろう。また、施設の在り方についての検討委員会等、外部評価を取り入れる仕組みについても今後検討されたい。

【令和5年度】

「堺 アルフォンス・ミュシャ館作品企画展示事業」は、アルフォンス・ミュシャの作品について、こどもから大人まで作品の魅力が伝わる工夫を凝らした展示がされており、本方向性に沿った取組である。ただし、広報については、企画展のテーマに関連した事業と連携した広報を実施する等、今後拡充に向けた検討が必要である。

「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【東京混声合唱団】」は鑑賞者に感銘を与える事業であることに加え、地元堺の合唱団とプロである東京混声合唱団と一緒にステージで共演する非常に意義のある取組である。また、「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）【ベルリン・フィルハ重奏団】」は市民のみならず市外や府外からも来場者が期待でき、フェニーチェ堺による都市魅力の発信につながる事業と言える。ただし、フェニーチェ堺の独自性をより強く出すためには、他館との連携によってクラシック音楽、特に馴染みのうすい室内楽への理解を深める講座を開催する等、集客目標の達成に向けた検討を要する。

これらのことから、「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性に資する取組が行われているといえるが、更なる工夫を期待したい

【令和6年度】

「文化芸術振興事業（フェニーチェ堺）」は楽器作り、コンサートを通じて、子どものみならず、大人も楽しめる構成内容で、「夏の子どもワークショップ DAY」と同時開催することでフェニーチェ堺全体が多くの来場者で賑わい、「多くの人に魅力を伝える」という重点的方向性に資する取組である。次に実施される場合には、コンサートの迫力や、より多くの楽器の魅力を知ってもらうためにも予算を考慮し、楽器の種類や演奏者の増加等を検討されたい。

「さかい利晶の杜管理運営事業」は、茶の湯文化の拠点であるさかい利晶の杜で実施された、従来の茶の湯とは異なるユニークな野点スタイルであり、固定観念に捉われない革新的な事業である。茶の湯文化を通じた「多くの人に魅力を伝える」取組であり、運営面から参加者数が限定されているものの、「堺茶の湯まちづくり条例」がある堺ならではの独自性を出す等、更なる工夫を期待したい。

計画の最終評価について

令和 7 年度に最終年度を迎える「第 2 期堺文化芸術推進計画」に関する最終評価は以下のとおりである。

■評価指標に係る結果について

第 2 期堺文化芸術推進計画（以下、第 2 期計画という）では、前期計画の結果やその後の社会情勢の変化から生じた課題に対応するため、新たに、「重点的方向性 1：文化芸術とともに生きる」、「重点的方向性 2：文化芸術で子どもたちを育てる」、「重点的方向性 3：多くの人に魅力を伝える」の 3 つの重点的方向性を設定し、着実な推進により堺市における文化芸術全体の底上げを図るため、重点的方向性と具体的な事業との関連性が高い 9 項目の評価指標を設定することで進捗状況の評価を行ってきた。

その結果、評価指標の設定時の実績値と、計画期間の 5 年目にあたる令和 6 年度の実績値を比較すると、評価指標に数値を設定している 7 項目中 6 項目で改善が見られたが、このうち目標値の達成は「事業体験後、学校側がこどもたちに良い影響・変化があったと答える児童の割合」、「山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋敷来館者数」の 2 項目のみに留まった。（達成は令和 3 年度及び令和 6 年度実績値のみ）

これは、令和 2 年からの新型コロナウイルス感染症のまん延により事業の中止や入場者数の人数制限、地域のサークル活動の減退、活動者数の減少や活動団体の解散等、市民の文化芸術活動が大きく影響を受けたことが要因と考えられる。実績値からも新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和 2 年度及び令和 3 年度においては軒並み減少していることがわかる。令和 4 年度以降、数値は徐々に戻りつつあるが、コロナ禍前の実績と比べると一部改善している数値はあるものの、平常時における値とは断定できないため、正確な評価が難しい。

具体的には評価指標の「文化施設利用者数」を見ると、第 2 期計画策定時の令和元年度実績値としては 1,049,822 人/年であったが、令和 2 年度には 471,167 人/年と半減しており、新型コロナウイルス感染症の多大な影響を受けたことがわかる。令和 5 年度に 1,087,879 人/年と第 2 期計画策定時の実績値を上回ったが、目標値の 1,500,000 人/年には達していない状況である。ただし、この目標値の設定そのものに合理的な根拠があったかどうかは再考する必要があるだろう。

同様に「先人顕彰事業の参加者数」においても令和 3 年度に大きく減少しており、その後少しづつ増加しているものの第 2 期計画策定当初の実績値にすら到達できていない。

一方で、数値を設定していない評価指標の「地域文化会館におけるマネジメント機能の構築」、「社会包摂型事業の新規実施」はそれぞれ目標値を達成できていると考える。

「地域文化会館におけるマネジメント機能の構築」は目標値を「機能構築」としており、堺アーツカウンシル※1 及び公益財団法人堺市文化振興財団（以下、財団）が主体として「指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修」を令和 4 年度から令和 5 年度の 2 年間にかけて実施した。また、このワークショップ実践研修は期間を 1 年に変更の上、令和 6 年度以降も継続実施している。多くの市民と関わる地域文化会館の企画担当者である参加者が地域の様々な主体（子育て・教育・福祉・観光・都市の活性化等）と連携したワークショップ事業を企画コーディネートするためのスキルやマインドを獲得・向上し、地域の様々な主体と連携し、「社会包摂」に関する事業の企画立案を行うことは、各地域会館のマネジメント機能の構築につながっていると言えよう。

「社会包摂型事業の新規実施」については「事業実施」を目標値としており、市民の文化芸術活動へ

の伴走支援を主として、ノウハウや情報の提供、そして活動する市民が人とのつながりや心の支えを得られるような取組を広げる「堺アーツカウンシル」の創設、文化芸術活動のすそ野の拡大と文化芸術による社会的課題の解決をめざした公募型補助金事業「堺市文化芸術活動応援補助金※2」の設立、財団におけるこども食堂への芸術家派遣アウトリーチ型事業、病院・障害者施設等での社会包摂型ワークショップ事業等、社会包摂型の新たな事業実施を力強く推進している。これらは全国的にみても先端的な取組として高く評価できる。

以上の結果を踏まえ、堺市における今後の文化芸術施策の推進及び第2期計画を継承する次期計画策定にあたり、次に記す重点的方向性に関する内容を留意のうえ必要な対応を行うことを求めたい。

※1 堺アーツカウンシル：専門知識を有する人材が、文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り、文化芸術を活用して、子育て、教育、福祉、都市の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす組織。

※2 堺市文化芸術活動応援補助金：歴史ある堺の文化の良さを継承し、市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、また、文化芸術の力を活用して、子育て、教育、福祉、観光、都市の活性化等の幅広い分野における社会的課題の解決に資する事業の実施に要する経費を市が補助することにより、自由で心豊かな市民生活の実現及び都市魅力の創造に寄与することを目的とした補助金。

【参考_評価指標推移】

重点的方向性		評価指標	令和元年度 (計画策定期掲載)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 (令和7年度)
1 文化芸術とともに生きる		文化施設※1 利用者数	1,049,822人／年	471,167人／年	549,531人／年	940,199人／年	1,087,879人／年	1,218,358人／年	1,500,000人／年
		地域文化会館における地域マネジメント機能の構築	—	堺アーツカウンシル設立	堺アーツカウンシル事業	堺アーツカウンシル事業 ／アートマネジメント研修	堺アーツカウンシル事業 ／アートマネジメント研修	堺アーツカウンシル事業 ／アートマネジメント研修	機能構築
		社会包摂型事業の新規実施	—	公募型補助金事業設立	公募型補助金事業	公募型補助金事業	公募型補助金事業	公募型補助金事業	事業実施
2 文化芸術で子どもたちを育てる※3		芸術家の学校への派遣割合 (計画期間における派遣校数/全小中学校数)	41%	44%	44.2%	46.4%	50.7%	57.3%	80%
		事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合	81%	82%	75.9%	76.3%	77.8%	76.4%	90%
		事業体験後、学校側が子どもたちに良い影響・変化があつたと答える児童の割合	78%	87%	96.2%	89.9%	84.4%	88.9%	90%
3 多くの人に魅力を伝える		山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋敷来館者数	13,426人／年※2	7,651人／年※2	5,742人／年※2	9,221人／年※2	7,428人／年※4	33,098人／年	30,000人／年
		文化芸術事業の認知度が30%を超える事業数	4	3	1	1	2	5	10
		先人顕彰事業の参加者数 (さかい与謝野晶子青春の短歌大会参加者数 及び阪田三吉名人杯将棋大会参加者数)	7,327人／年	6,616人／年	4,631人／年	6,603人／年	6,654人／年	9,423人／年	10,000人／年

■各重点的方向性について

(1) 重点的方向性 1：文化芸術とともに生きる

文化芸術基本法において、文化芸術そのものの振興に加え、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他の各関連分野においても文化芸術がその力を発揮するものであることが明記されている。

そのような社会的背景もあり、堺市では令和2年度に「堺アーツカウンシル」を創設して以降、市民の文化芸術活動の相談、視察を通じた支援活動や調査研究、情報発信等の活動を通じて、文化芸術に携わる人たちの支援、文化芸術の振興、文化芸術を活用した社会的課題の解決をめざす取組を継続している。相談件数の推移からも令和6年度が60件であり、令和3年度から約1.4倍となっており、地域の文化芸術活動に携わる個人や団体との双方向、かつ継続的なコミュニケーションが行われているのがわかる。また、テーマを設けて勉強会や交流会を開催しており、文化芸術活動をしている人だけでなく、興味がある人、これから活動を考えている人が知識を深め、情報交換や相談を行うことで双方向の交流の機会を創出している。

令和3年度から始めた公募型補助金「堺市文化芸術活動応援補助金」は文化芸術の力を活用した社会的課題等の解決、文化芸術活動のすそ野の拡大による地域文化力の向上を目的として、令和6年度までの4年間で計151件の事業を採択しており、公民館や地域会館といった身近な場所から文化会館のホール、病院や福祉施設、神社等の幅広い場所ですべての人が文化芸術を享受できる機会の提供に寄与している。あわせて堺アーツカウンシルが申請時の事業の組み立てについての相談受付や視察、より効果的な事業実施をめざして伴走支援を行った。

上記をふまえ、「堺アーツカウンシル」の取組から「堺市文化芸術活動応援補助金」の申請につながるなど、両事業は堺市の文化芸術におけるすそ野の拡大や自由で心豊かな市民生活の実現及び都市魅力の創造に寄与していると言える。しかしながら、市政モニターアンケートの結果や堺アーツカウンシル勉強会・交流会の参加者への聞き取り等からは「堺アーツカウンシル」及び「堺市文化芸術活動応援補助金」ともに市民の間で十分に浸透しているとは言えない。活動報告書の有効活用や地域に出向いていく等の広報強化による認知度拡大を図り、更なる文化芸術活動のすそ野の拡大を実現されたい。

地域文化会館における文化芸術拠点としての機能強化は、前述した「堺アーツカウンシル」及び「財團」による「指定管理者等の企画担当者等に向けた社会包摂型のワークショップ実践研修」を実施しており、地域文化会館等の企画制作等に携わる職員のスキルや社会包摂への意識向上が図られている。この研修を継続して実施することで、地域文化会館をはじめとした関係施設職員のスキルおよび意識の向上、相互の交流等を経て地域における文化芸術の拠点の機能強化に取り組んでいる。

また、各地域文化会館では歴史セミナー等の文化講座や寄席、堺こどもミュージカルといったこども向け事業を実施する等、地域のニーズに即した文化芸術振興事業を提供している。それらにより、市民が身近なところで文化芸術に触れるができる機会が増え、活動を通じてコミュニティのつながりが生まれる等、社会的課題の解決につながることを期待したい。

(2) 重点的方向性2：文化芸術で子どもたちを育てる

子どもの頃から多くの文化芸術に触ることは、豊かな感性を育むとともに、生涯にわたる生きがいを生み出し、また文化芸術の将来の担い手を育てることにもつながる。次世代を担う子どもたちが社会的・経済的な環境に関わらず、等しく文化芸術に出会う機会の充実が求められている。

堺市においては「さかいミーツアート」や「アートスタートプログラム」のように音楽、造形など多様な分野の芸術家を市内学校園へ派遣して、音楽鑑賞やワークショップ体験をするアウトリーチ事業、市内文化ホールにて小学生がプロのオーケストラ演奏を聴くことで、音楽に触れ合う機会を提供するインリーチ事業を実施する等、子どもたちが文化芸術に幅広く触れる機会を創出している。

評価指標を見ると「芸術家の学校への派遣割合（計画期間における派遣校数/全小中学校数）」は、目標値に届いてはいないが、年々割合は増加しており、令和3年度から4年間で50校への派遣が行われた。また、「事業体験後、児童が文化芸術に興味を持てたと答える割合」については、年度によっては目標値を達成したものもあり、おおむね高い割合で推移している。実際に体験した児童の意見を参考に挙げると、この事業をきっかけに文化芸術に興味を持ち、更に深めるために文化施設へ通うようになったことや、文化芸術の専門分野への進路をめざすきっかけになったという報告がある。

同様に芸術家にとっても、子どもたちに芸術的な表現を伝えその反応を受け取ることは、芸術家自身の感性を磨き、成長することにもつながることから、結果として、将来的に堺市の文化芸術の中核となり得る若手芸術家の成長も実現することができると考える。しかしながら、「さかいミーツアート」をはじめとした事業は文化芸術の将来を担う人材の育成に寄与しているものの、現状は希望している小中学校園の全てに対して派遣ができていないため、財団の人材拡充や実施校・園のニーズにあわせて事業内容、規模を選択できるようにするなど、より多くの子どもたちが文化芸術に触れることができるよう今後改善を求める。

(3) 重点的方向性3：多くの人に魅力を伝える

堺市では類いまれな歴史文化資源に磨きをかけ、後世にその価値を引き継ぎ、歴史や文化芸術、国際交流を通じて、都市のブランド力の向上を図り、新たな誘客や交流を生み出すとともに、質が高く、幅の広い文化芸術に触れる機会を市内外の人に提供し、自由で心豊かな市民生活や、活気があり魅力あふれる都市の実現をめざしている。

堺市には世界最大級の墳墓「仁徳天皇陵古墳」を含む世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」、「茶の湯」を大成した千利休・歌人の与謝野晶子等の堺市が誇る偉大な先人達、アルフォンス・ミュシャ・コレクションをはじめとする所蔵芸術作品等の豊富な歴史文化資源がある。その他にも、中世の時代に「黄金の日日」と称されるほどの繁栄を極めた国際貿易都市の面影が残る「環濠エリア」、全国で唯一残る江戸時代の鉄炮鍛冶の作業場兼住居である「鉄炮鍛冶屋敷」、市内各所にある寺社仏閣等の歴史的建造物や地域の例祭等があり、歴史文化都市としての魅力を市内外へ広く発信している。

また、堺市の文化芸術の拠点であるフェニーチェ堺では優れた舞台芸術や多彩な公演に触れる機会が充実しており、周辺地域の賑わい創出にも寄与している。それだけでなく各地域の文化施設での音楽や舞台、ワークショップ等の文化芸術体験、茶の湯文化に触れることができる「さかい利晶の杜」等においても都市魅力の発信を行うことで、多くの人に堺市の魅力を伝えている。

しかしながら、評価指標としては令和6年度に目標値に達した「山口家住宅、清学院、鉄炮鍛冶屋敷来館者数」を除いて、「文化芸術事業の認知度が30%を超える事業数」、「先人顕彰事業の参加者数」のいずれとも新型コロナウィルス感染症の影響を鑑みたとしても厳しい実績となっている。先述のとおり、

進捗を評価するうえで当初の目標値が適切であったかも含め、次期計画策定時には評価方法や評価指標を再考するべきである。

さらに、堺市の歴史文化資源に対する認知度は十分ではなく、市内だけでなく多くの人にさらなる魅力を伝えるためには茶の湯の文化を生かしたまちづくりの推進を定めている「堺茶の湯まちづくり条例」を活用するなど、堺市の独自性を一層打ち出す必要がある。また、堺市は「ものの始まりなんでも堺」と謳われたように、次々とイノベーションを生み出す都市として知られてきた。2025年大阪・関西万博を絶好の機会と捉え、海外との交流を通じて多様な価値観や新たな技術を取り入れることにより、堺市の価値と魅力を広く国内外に発信し、知名度向上および誘客を図ることを検討されたい。

おわりに

本答申書における各委員の評価を受けて、各具体的取組の実施主体においては、次期推進計画期間においても、目標達成に向けて、また、より妥当性・有効性の認められる成果指標の設定、事業実施に向けて十分に検討の上、事業の見直しを進められたい。